

会議結果報告書

令和3年6月8日

会議の名称	令和3年度 第1回志木市廃棄物減量化資源化等推進審議会
開催日時	令和3年5月26日（水）10時00分～11時10分
開催場所	市役所 第3庁舎 4階庁議室
出席委員 及び 関係機関	大村相哲会長、清水賢三副会長、田中源雄委員、山口秀子委員、 時田英司委員、関根正男委員、内野由浩委員、近藤豊委員委員 (計 8人)
欠席委員	なし (計 0人)
説明員	小日向啓和環境推進課長、吉田恵子主査 (計 2人)
議 題	(1) 審議会の会議運営及びスケジュールについて (2) 志木市災害廃棄物処理計画について (3) 令和3年度廃棄物に係る新規事業等について (4) その他
結 果	審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	村山修市民生活部長、小日向啓和環境推進課長、樋山博明副課長、 吉田恵子主査
審議内容の記録（審議経過、結論等）	
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 委員自己紹介</p> <p>4 正副会長の互選（会長及び副会長あいさつ） 会長に大村委員、副会長に清水委員が選出された。</p> <p>5 あいさつ</p> <p>6 議事</p> <p>（1）審議会の会議運営及びスケジュールについて 説明員）資料に基づき説明。会議運営及びスケジュールを承認いただきたい。 委員）今後は月末の日程を避けていただきたい。</p> <p>【審議結果】 議題（1）のうち次回会議は9月30日を予定するが、次年度は日程に配慮することとし承認する。</p> <p>（2）志木市災害廃棄物処理計画について 説明員）資料に基づき説明。審議会の協力のもと、計画期間が令和3年からとなる新たな行政計画として、災害廃棄物処理計画を策定した。 質疑なし。</p>	

(3) 令和3年度廃棄物に係る新規事業等について

説明員) 資料に基づき説明。新規事業高齢者の戸別訪問収集の試験的導入、昨年度策定された計画を踏まえ、災害廃棄物処理の理解促進に関する事業を予定している。

委員) 高齢者のごみに関して、戸建て住宅は班の当番でゴミ出しが行われることが多いが、町内会の高齢者化も進み、カゴを持っていけないので台車を購入してほしいと要望があるなどゴミ出しの問題がある。ごみの問題は今後5年後10年後で状況がさらに悪化すると思うので、理解しておいてほしい。

委員) 集積所は、町内会に入らなければゴミを出せないのか。

委員) そのようなことはなく、町内会の会員でなくても収集される。ゴミをきちんと分別もせず出されることがあるので困る。

委員) 集合住宅は常時ゴミ置き場があるが、戸建住宅は、曜日によって出せるものと出せないものがあり、収集できないで未だに警告シールが貼られるケースもあって、ルールを理解してもらわなければならない。自分でも集積所を片付けているが、順番で片付けできる時点ではまだ良いが1軒ずつ欠けると難しいと思っている。

委員) 戸別収集の場合は個人が出せば良いが、集積所できちんとやっていたものが後からの転入者がうまく出せない場合もあり、コミュニティもだんだん失われてきている状況からもごみは難しい問題だと思う。

委員) 福祉や関係団体等と連携が必要など、高齢者や地域のごみ問題は難しいと思う。

議長) 貴重な意見で、毎日のことなので一部のために一部の人の負担が大きいとのことである。

委員) さいたま市在住だが、収集用カゴもないため分別ができてなくても廃棄プラスチックなど分けてないものは可燃ごみで収集され、カゴもネットもない。さいたま市から引越した人はこんなに分別するのかとなっている。

委員) 町内会を運営する立場から、若い方は子どもがいれば通学班、通学路の次にごみが問題に出るが、ごみの収集車で道路が狭く通れないなどは他の町内会と協力し合っている。布団などルールを守らず出されたごみも集積所の方が裁断し協力しているが、今後高齢化してくるとうまくできるか課題である。

議長) 手探りの実施ではあると思うが、高齢者の戸別訪問収集事業の試験的導入で安否確認も行うとのことである。

副会長) この収集のごみはすべてが対象か。民生委員が連携して安否を確認するのか。

委員) 粗大ごみは有料で、高齢者も有料である。民生委員は、別に安否確認や調査などを随時やっていると思う。

事務局) 粗大ごみを除くすべてが対象となる。民生委員とは別に安否確認を行う。

(4) その他

委員) 最近、SDGsが取り上げられ、ごみ減量の問題でバックに生ごみを入れ堆肥化し業者が引取る有料サービスもあるとの報道もあった。市で配布すればごみ削減に有効と思うがどうか。

委員) 以前に生ごみを堆肥化する市のコンポスト事業を利用したこともあった。

議長) 志木市でも落ち葉を利用して堆肥化しポイントを付与する落ち葉銀行事業が行われている。

委員) ごみを3倍圧縮しソーラー発電する民間企業の新事業も報道されていたが、コロナ禍でテイクアウトも増え、この時期にプラチックのごみも増えてレジ袋などは不用ではないか。鍋を持って豆腐を買い、昔は包装容器のごみが出ない時代もあった。

委員) 生活様式から見直すようになる。

議長) 個人的に聞いたところ店によって違うと思うが、約9割はレジ袋を辞退しているとのことである。ごみ削減など良い案内をいただいた。

7 閉会

○次回会議 令和3年度第2回会議 令和3年9月30日(木) 午前10時から予定する。

以 上